

式内社

日本唯一料理の祖神をまつる



Takabe Jinja



お住まいには、神棚を設けてお伊勢さまと  
氏神さまの御神札をおまつりしましょう。



神棚のご注文承ります  
簡易神殿もございますのでご相談下さい。

《各種御祈祷予約にて承ります》

家内安全・商売繁昌・交通安全・自動車清祓  
健康守護・厄除・安産・初宮詣・七五三詣  
恵方参り 庵丁供養または清祓 等

食生活の安全・守護を祈り清祓いたします。

《出張祭典承ります》

地鎮祭・竣工祭・神棚奉斎・入居清祓 等

太平洋を見晴らす高台に鎮座するたかべさま



- JR内房線千倉駅下車 約2km  
千倉駅からはJRバス又はタクシーをご利用下さい
- 富津館山道路 富浦ICより16km 約25分

ご不明な点はお気軽にお問い合わせ下さい。

たかべ  
高家神社社務所

〒295-0012 千葉県南房総市千倉町南朝夷164  
Tel・Fax 0470-44-5625(社務所) Tel 0470-44-3967(高木宮司宅)



11月23日に奉納される四條流石井派一門庖丁式

## 庖丁式

Houcho shiki

光孝天皇は料理に造詣が深く、天皇の命により  
様々な料理をまとめて後世に伝えたのが四條流  
の祖といわれる四條中納言藤原朝臣山陰卿  
でした。光孝天皇の時代（平安時代）から朝廷を  
始め、貴族社会の人々により、宮中行事の  
一つとして行われてきたのが「庖丁儀式」です。  
烏帽子、直垂をまとい、庖丁とまな箸を用い、  
一切手を触れることなく、鯉、真鯛、真魚鰐など  
さばきは、熟練の技。日本料理の伝統を今に  
伝える厳粛な儀式です。  
毎年、五月十七日、十月十七日（旧神嘗祭）と  
十一月二十三日（新嘗祭）に高家神社境内で  
庖丁式の奉納が執り行われています。



10月17日に奉納される四條真流庖丁式

# 高家神社由来

**主祭神 磐鹿六雁命（尊称・高倍神）**  
天照大神・稻荷大神を併せ祀る

## 例祭日

五月十七日	春季例祭・庖丁式奉納
十月十七日	秋季例祭・庖丁式奉納（旧神嘗祭）
十一月二十三日	新穀感謝祭・庖丁式奉納（旧新嘗祭）

毎月十七日 月次祭・庖丁供養祭

「日本書紀」の第十二代景行天皇五三年冬十月の条に祭神・磐鹿六雁命について記されているが、延暦八年（七八九）に磐鹿六雁命の子孫である高橋氏が朝廷に奉つたとされる「高橋氏文」にさらに詳細に記述されている。

景行天皇が皇子日本武尊の東国平定の事績を偲び、安房の浮島の宮に行幸された折、侍臣の磐鹿六雁命が、弓の弦をとり海に入れた所堅魚を釣りあげ、また砂浜を歩いている時、足に触れたものを採ると白蛤（はまぐり）がとれた。磐鹿六雁命はこの堅魚と白蛤を膾にして差し上げたところ、天皇は大いに賞味され、その料理の技を厚く賞せられ、膳大伴部を賜つた。

この功により若狭の国、安房の国の長と定められ、以後代々子孫は膳の職を継ぎ、もし世継ぎの無いときは、天皇の皇子を継がせ、他の氏を交えず、皇室の食事を司るよう賜つた。

また、大いなる瓶（かめ）に例え、高倍とまとめて宮中醸院で醤油醸造・調味料の神として祀られている。醤には、野菜を発酵させた草醤、穀物を発酵させた穀醤、魚などを発酵させた肉醤があつた。今でいう漬物・味噌・醤油・塩辛の三種だが、これらは日本料理の基礎をなすものであり、磐鹿六雁命が料理の祖神とされる由縁である。

高家神社は延喜式神名帳に登載される小社の一つである。現在の所に祀られたのは江戸時代の初頭にさかのぼる。

元和六年（一六二〇）、現在の宮司の祖先となる高木吉右衛門が桜の木の下から、木像と二面の御神鏡を発見し、社を建てて祀る。

二百年余りの後、この鏡面に御食津神、磐鹿六雁命と記されていたことがわかり、当時所在があきらかではなかつた高家神社の御神体であるとして、文政二年（一八一九）に京都吉田御所に証を願い、御幣帛をいただく。神社拝殿内正面の御神号額（表紙写真）はこの時のもので、神祇道管領ト部朝臣良長の銘が刻まれている。

江戸時代以降、醤油沿革史の著者・田中直太郎（金銚子）氏、料理法大全の石井治兵衛氏、さらには日本料理研究会初代理事長・三宅孤軒氏等の労により、祭神の御神徳が発揚され今日に到つてゐる。



御神札 上達守 刀入守



高倍醤油  
授与所にて各種守札や  
特別醸造醤油「高倍」を  
頒布しております。



庖丁塚

拝殿の左右にある庖丁塚。調理師などの関係者が供養に訪れる。毎月17日に庖丁供養祭が行われる。



拝殿内部  
正面奥は内拝殿、  
祝詞殿、御木殿  
と続く



庖丁式を行  
う舞台が設けら  
れている庖丁式  
奉納殿



鳥居の向こう、参道正面に見える拝殿  
茅葺きの清楚な佇まいの拝殿